

令和元事業年度前期高齢者特別会計

事務費勘定

財 産 目 録

貸 借 対 照 表

損 益 計 算 書

キャッシュ・フロー計算書

令和元事業年度前期高齢者特別会計
事務費勘定財産目録

(令和2年3月31日現在)

資 産 の 部			
区 分	内 訳		金 額
	摘 要	金 額	
流 動 資 産		千円	千円
現金及び預金			265,867
			264,091
	普通預金	56,228	
	定期預金	207,863	
未収入金			1,775
	消費税等還付金	1,775	
固 定 資 産			24,330
有形固定資産			3,803
工具器具備品			4,724
減価償却累計額			△ 921
投資その他の資産			20,527
前払年金費用			20,527
資 産 合 計			290,198

令和元事業年度前期高齢者特別会計
事務費勘定貸借対照表

(令和2年3月31日現在)

資 産 の 部			負 債 ・ 資 本 の 部		
区 分	注記 番号	金 額	区 分	注記 番号	金 額
(資産の部)		千円	(負債の部)		千円
I 流動資産			I 流動負債		
1 現金及び預金		264,091	1 未払金		10,805
2 未収入金		1,775	2 未払費用		2,661
流動資産合計		265,867	3 預り金		1,495
			4 賞与引当金		18,610
II 固定資産			流動負債合計		33,571
1 有形固定資産			II 固定負債		
工具器具備品		4,724	退職給付引当金		177,353
減価償却累計額		△ 921	固定負債合計		177,353
有形固定資産合計		3,803	負債合計		210,925
2 投資その他の資産			(資本の部)		
前払年金費用		20,527	利益剰余金		
投資その他の資産合計		20,527	1 別途積立金		118,278
固定資産合計		24,330	2 当期末処理損失		39,005
			利益剰余金合計		79,272
			資本合計		79,272
資産合計		290,198	負債・資本合計		290,198

令和元事業年度前期高齢者特別会計
事務費勘定損益計算書

(自 平成31年4月 1日)
(至 令和 2年3月31日)

区 分	注記 番号	金 額	金 額
		千円	千円
〔経常損益の部〕			
(業 務 損 益 の 部)			
I 業 務 収 益			
事業費勘定からの受入		383,313	383,313
II 業 務 費 用			
1 給 与 手 当		160,292	
2 賞 与		38,410	
3 賞与引当金繰入額		18,610	
4 退職給付費用		28,944	
5 法定福利費		32,063	
6 委 託 費		65,108	
7 修 繕 費	※1	28,219	
8 減 価 償 却 費		850	
9 その他の業務費用		48,845	421,346
業 務 損 失			38,033
(業 務 外 損 益 の 部)			
業 務 外 収 益			
受 取 利 息		2	2
経 常 損 失			38,030
〔特別損益の部〕			
特 別 損 失			
固 定 資 産 除 却 損	※2	975	975
当 期 純 損 失			39,005
当 期 未 処 理 損 失			39,005

令和元事業年度前期高齢者特別会計
事務費勘定キャッシュ・フロー計算書

(自 平成31年4月 1日)
(至 令和 2年3月31日)

区 分	注記 番号	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー		千円
事業費勘定からの受入収入		383,313
人件費の支出		△ 261,677
その他の業務支出		△ 162,612
小 計		△ 40,977
利息の受取額		2
業務活動によるキャッシュ・フロー		△ 40,974
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資活動によるキャッシュ・フロー		—
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー		—
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		—
V 現金及び現金同等物の増減額		△ 40,974
VI 現金及び現金同等物の期首残高		305,066
VII 現金及び現金同等物の期末残高	※1	264,091

令和元事業年度前期高齢者特別会計 事務費勘定損失処理計算書

(令和2年6月29日)

区 分	金 額
I 当 期 未 处 理 損 失	39,005,947
II 損 失 处 理 額	
任意積立金取崩額	
別途積立金取崩額	39,005,947
III 次 期 繰 越 損 失	0

重要な会計方針

期 別	当会計期間
項 目	(自 平成 31 年 4 月 1 日) (至 令和 2 年 3 月 31 日)
1. 固定資産の減価償却の方法 有形固定資産	<p>定額法によっております。</p> <p>なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。</p> <p>工具器具備品 5年</p>
2. 引当金の計上基準	<p>職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当期に見合う分を計上しております。</p> <p>職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>ア 退職給付見込額の期間帰属方法</p> <p>退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>イ 過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法</p> <p>過去勤務費用については、職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額を、発生時から費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌期から費用処理しております。</p>
3. キャッシュ・フロー計算書 における資金の範囲	<p>手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資からなっております。</p>
4. その他財務諸表作成のための 重要な事項 消費税等の会計処理	<p>消費税等の会計処理は税抜方式によっております。</p>

表示方法の変更

(損益計算書関係)

当会計期間 (自 平成31年4月1日) (至 令和2年3月31日)
※1 前事業年度において「業務費用」の「その他の業務費用」に含めておりました「修繕費」(前事業年度3,454千円)は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

注記事項

(損益計算書関係)

当会計期間 (自 平成31年4月1日) (至 令和2年3月31日)	
※2 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。	
千円	
工具器具備品	975
計	975

(キャッシュ・フロー計算書関係)

当会計期間末 (令和2年3月31日現在)	
※1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係	
千円	
現金及び預金	264,091
現金及び現金同等物	264,091

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当支払基金は、職員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付型制度を採用しております。

企業年金基金制度（積立型制度であります。）では、給与と加入期間に基づいた年金又は一時金を支給します。

退職一時金制度（非積立型制度であります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

2. 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	△ 313,921	千円
勤務費用	△ 17,343	
利息費用	△ 1,569	
数理計算上の差異の当期発生額	△ 12,983	
退職給付の支払額	13,983	
期末における退職給付債務	△ 331,833	

3. 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	99,005	千円
期待運用収益	2,772	
事業主からの拠出額	6,422	
数理計算上の差異の当期発生額	2,336	
退職給付の支払額	△ 6,579	
期末における年金資産	103,957	

4. 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び資産の調整表

イ. 積立型制度の退職給付債務	△ 126,012	千円
ロ. 年金資産	103,957	
ハ. 非積立型制度の退職給付債務	△ 205,820	
ニ. 未積立退職給付債務（イ＋ロ＋ハ）	△ 227,875	
ホ. 未認識過去勤務費用	△ 19,380	
ヘ. 未認識数理計算上の差異	90,430	
ト. 貸借対照表計上純額（ニ＋ホ＋ヘ）	△ 156,825	
チ. 前払年金費用	20,527	
リ. 退職給付引当金（ト－チ）	△ 177,353	

5. 退職給付に関連する損益

勤務費用	15,910	千円
利息費用	1,569	
期待運用収益	△ 2,772	
過去勤務費用の当期の費用処理額	△ 2,422	
数理計算上の差異の当期の費用処理額	16,659	
退職給付費用	28,944	

(注) 企業年金基金に対する職員拠出額を控除しております。

6. 年金資産の主な内訳

債 券	60.6%
株 式	27.0%
その他	12.4%
合 計	100.0%

7. 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

8. 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎	
割引率	0.5%
長期期待運用収益率	2.8%